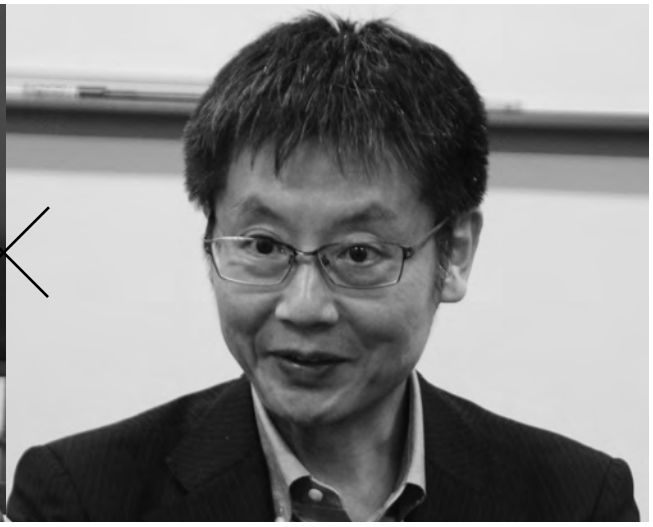
対談

地域医療の未来をひらく



白石裕子先生
自治医科大学 地域医療学センター
総合診療部門・地域医療人材育成部門 助教

杉田義博先生
日光市民病院 管理者

第18回 へき地・地域医療学会を終えて

杉田　第18回 へき地・地域医療学会の大会長を務められた白石裕子先生をお迎えして，お話を伺います．白石先生，学会大会長の大役，お疲れさまでした．

白石　ありがとうございます．

杉田　まずは大成功に終わった学会の感想をお願いします．

白石　そうですね．女性の参加者も増え，皆さんが未来に希望や夢を思い描き，いろいろなパワーをもらったと思える学会となっていればと思います．

杉田　今回，大会長になられたのは地域医療振興協会の中国ブロックで指名されたことがきっかけだったそうですね．

白石　はい．「私は今，自治医科大学の地域医療学センターに在籍していて，中国地方にいないのですがよろしいのでしょうか？」と伺ったら，「若返りと女性目線を入れたい」と言われ，お受けしました．女性のリーダーとして活躍されている，フェイスブック・現メタの元COOシェリル・サンドバーグさんがTED Conferencesに出ているのを拝見し，やはり同じテーブルについて参加することが大事だし，自分にもっと自信を持って前に進むことが女性には必要だというこ

とを常々思っていましたので，いただいたお仕事はできることであれば受けようと思っています．

杉田　断らない．まず受ける．白石先生のこれまでのキャリアにも共通しているんじゃないですか？

白石　そうですね，断るのが苦手です(笑)．

島を飛び出し，大学へ

杉田　ところで，先生のパートナーである白石吉彦先生は自治医大の私の同期生で，出席番号も近く，今も腐れ縁が続いています．

白石　私も杉田先生と40年くらいのお付き合いになりましたね．

杉田　吉彦先生は徳島県出身で研修は徳島でされ，結婚して裕子先生の出身の島根県で義務年限を過ごし，そのまま隠岐島に居ついてしまったわけですね．

白石　そうですね．隠岐だったということが大きかったと思います．そこで完結しなければならない医療がありますし，研修で学んだお産や整形外科も徳島では使うタイミングもなかったのに，隠岐では頼られ大事にしてもらえて，多分ツボにはまったのだと思います．

杉田　２人ともはまってしまった？

白石　私は助けられながら，日々臨床と子育てと，時々家事といった感じでしたが，でも，チーム医療，グループ診療でお互いに補い合ったり，今日は診療所，明日は隣の村の診療所，その次の日は病院というようなローテーションなどもして，みんなで一緒に体系的に作り上げてきました．

杉田　島の規模も病院の規模も，仕事量などもちょうどよかった感じですか？

白石　仕事量は少しオーバーだったかと思いますが，でも子育て環境も，島の方にいろいろ助けていただきましたし，病院のスタッフや家族，お姑さん，両親，姉も子育てに参加してくれたので，とても助かりました．

杉田　島には何年いたのですか？

白石　私は20年です．

杉田　島を離れるきっかけは？

白石　いちばん下の子どもが中学校に入ったことです．子どもたちはみんな中学校で家を出て，ボーディングスクールに入りました．それで私も大学に行こうと思い立ちました．

杉田　そのときに吉彦先生は，島に残ったのですか？

白石　彼はちょうど島根大学からのお話があったので，島の家は，官舎ですけど，そのまま残して行ったり来たりしていました．その後，コロナ禍で移動できなくなりましたが．

杉田　先生が大学で学び直そうと考えられた際に，自治医大の地域医療学センターを選んだのはどうしてですか．

白石　地域医療学センターで同期の石川由紀子先生や，松村正巳教授，小谷和彦教授のお話を聞きに行ったり，「基礎をやってみるのもいいかも知れない」と考え，遺伝子治療研究センターの教授になっている，同期の大森司先生ともお話しし，皆さんから自分のやりたいと思ったことをやればいいとアドバイスされ，それまでやっていた地域医療を活かせる地域医療学センターを選びました．

杉田　生活も仕事も激変しましたか．

白石　総合診療内科の仕事自体はこれまでの延長線上です．逆にこれまであった外科系がないのでエリアは狭くなった感じですね．

杉田　教育の仕事はいかがでしたか．

白石　教育は島にいたときにも，医学生，薬学生，看護学生を含め，年間100人ぐらい来ていました．初期研修２年目や後期研修医も来ていましたが，私は自分の臨床能力にあまり自信がなかったので，後期研修医よりは，いろいろな可能性を秘めた学生さんたちと触れ合えるのが楽しみでした．